

2022年度 福井厚生病院における看護職員負担軽減計画

	目 標	対 策	目 標 達 成 年 次	
外 来	1 医師の診療予約変更の連絡が日勤帯でできる	患者に、診療予約変更案内のためと説明し、日中連絡のつく連絡先を予め確認し、カルテに控えておき日勤帯に連絡が付くようにしておく	事務・看護師	実施済み (令和4年度も継続)
	2 看護師が請求しなくても日・月の薬剤定数が補充される	薬剤定数はカード運用されているが、日・月曜日分を見込んだ薬剤師補充管理とできないかの検討を行う	薬剤師・看護師	実施済み (令和4年度も継続)
	3 糖尿病指導における患者指導の実施	チーム医療による看護業務支援の充実	看護師・管理栄養士	実施済み (令和4年度も継続)
	4 処置室での採血業務の役割分担	外来患者さんの処置室での採血実施	臨床検査技師	実施済み (令和4年度も継続)
病 棟	1 看護補助者との協働で認知症患者の対応や介護ケアの看護師負担を軽減できる	看護補助者に、高齢者や認知症に関する看護師からの指導・e-ラーニングの導入・院内研修の実施を行い、入院生活や身体のお世話等の業務について、看護師との協働体制作りを行う	看護補助者・看護師	実施済み (令和4年度も継続)
	2 薬剤指示の処理を時間内に終わることが出来る 定数薬管理は薬剤師が担当し、看護業務に集中できる	ルールが守られないための負担については、医局統制が必要なため院長に相談する。また、定期処方については、薬剤課と医師の連携により看護師が介入することなく15時までの処方とし、注射カートと共に病棟配送できるように検討する	薬剤師・医師・看護師	実施済み (令和4年度も継続)
		看護師が、使用薬剤を電カルの実施記録を漏らさず行い、薬剤課で把握した後病棟定数と照合して管理することが出来ないか等を提案・検討し、定数残薬と補充業務を薬剤師に移譲する	薬剤師・看護師	未定 (達成年次も含め再検討)
	3 医師指示受けを勤務内で実施できる	指示内容に応じて、緊急以外は後日回しとし、最小限の指示受けをする。また、時間外となりそうな場合は、夜勤者に申し継ぎ指示受けを依頼する 処方切れは薬剤師も把握可能なため医師への確認で15時までの調剤可能とならないかの交渉を検討中	医師・看護師・薬剤師	実施済み (令和4年度も継続)
	4 入院診療計画書に沿って入院早期から退院支援が開始できる	入院決定時に、入退院支援者が医師の入院治療計画書内容を確認し、未記入時は、医師への記入依頼と方針等の確認を行い、医師の方針を多職種が共有できるように働きかける	入退院支援者(看護師)	実施済み (令和4年度も継続)
5 看護師補助者の配置	看護補助者2名(事務職より配置転換)を、3F病棟(地域包括ケア病棟 看護補助者配置加算を新規に算定)に配置	看護補助者・看護師	実施済み (令和4年度も継続)	

	目 標	対 策	目 標 達 成 年 次
	6	病棟でのリハビリ実施 リハビリ職種が、各病棟においてリハビリを実施することにより、患者さんのADLを向上	理学療法士、 作業療法士、 言語聴覚士 実施済み (令和4年度も継続)
共通	1	事務的作業労働力の軽減及び削除を図る。 手書きと入力のリハビリ実施について、入力作業を看護師が実施する必要性について確認する また、日々の補充は用度課が実施しているため、たな卸しの簡素化が出来ないかの検討をする	用度課職員・ 看護師 実施済み (令和4年度も継続)
	2	土日SPD箱出しを廃止しても材料不足とならない 定数以上に必要となることが予測される材料は、平日に土日分を請求しておく また、急に必要となった材料は用度課に土日用SPDを準備するなどの検討をする	看護師・用度 課職員 実施済み (令和4年度も継続)
	3	材料変更時等は事務部門で、電子カルテ上の材料変更処理を行い、リアルタイムの実施入力ができる 事前登録のための連携体制、もしくはマスター登録の一元化で登録遅延や漏れを防止する対策の検討をする	用度課職員・ 医事課職員・ 看護師 実施済み (令和4年度も継続)
	4	子育て中の看護職員に対する配慮 看護師が、子育てしやすい環境を整える	保育士・事務 実施済み (令和4年度も継続)
	5	医療機器の適切な管理 臨床工学技士による各種医療機器の管理の実施、及び定期的なラウンドによる保守点検	臨床工学技士 実施済み (令和4年度も継続)